

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆ アメリカ気象学会（AMS93）に参加して

米国気象学会定期大会（AMS93）が本年1月6日～10日の日程で開催され、気象業務支援センターは日本の気象測器会社などの方々へのブース展示等の支援のため参加しましたので、大会の概要を速報します。

今年の学会は、ダルビッシュ投手の本拠地に近いテキサス州の州都オースチンで開催されました。例年、AMSには気象情報の開発や利活用に関する研究発表、ポスター展示、世界各国の企業による気象関連機器（気象観測機器、高層気象、レーダー、ゾーダー等）や気象情報商品（衛星情報、リモートセンシング等）、大学や出版業界からの展示等が行われていますが、今回も同様の展示が行われていました。

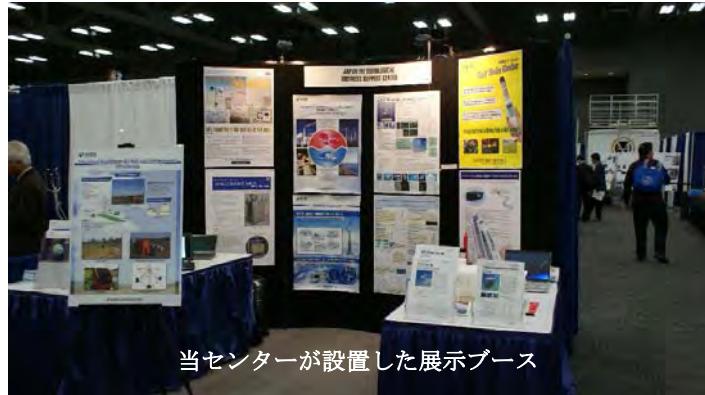
AMSの会場では、当センター名で設置したブースに、日本の測器工業会に所属する2社が自社の気象測器やポスターの展示により参加され、また他の2社からは測器やパンフレット、ポスターを当センターがお預かりし、ブースに展示しました。日本製品に関する関心は高く、展示期間中には多数の問い合わせがあり、対応に追われる場面もありました。

また、気象関連企業の展示は、アメリカの大手企業であるボーイング社、ロッキード社、ノースウェスト社やNOAA、NASAなどが大きなブースを開き、数多くの気象関係企業が出展していたものの、ヨーロッパからの出展が昨年を下回る状況でした。昨年から特に増えた展示は、オールインワンタイプの自動気象観測装置（AWS）で、空港での気象観測や臨時で行う気象観測を目的とした機器の展示が目立ちました。また、ライダーおよび雷検知に関する展示も多く見られました。

大会初日、HMEI（水文気象測器工業会）の例会が開かれ、WMO Presidentが基調講演を行いました。Presidentからは今年の重点目標として、WWW（World Weather Watch）の強化、観測情報の集約化、観測情報の伝達の迅速化にHMEIの協力を要請していたのが印象的でした。

一方、参加者の傾向として、アジアからは中国や韓国からの研究者や企業人の参加数に比べ日本人の研究者や企業の参加が少ないのが気にかかるところです。

なお、来年のAMS94は、2014年2月2～6日の期間、アトランタで開催される予定です。



当センターが設置した展示ブース



（気象業務支援センター振興部 山本忠治）